

登録コード:MH104200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	人体の構造と機能（臨床病態学）【20M～24M】 Human Structure and Function IV (Clinical Pathophysiology)			
担当教員	伊澤 淳			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/ 2 学年 後期 木曜・ 5 時限			
単位数、講義室	1 単位	多目的講義室		遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。		健康障害を呈する主な疾患について、臨床医学の専門診療領域における診断、治療、予防等を学修し、病者を全人的に理解して健康を支援する方策を立案することができる。	
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		健康障害を呈する多様な病態について、臨床医学の専門診療領域の科学的根拠に基づいた診断、治療、予防等を学修し、症状や障害等の健康課題の解決に向けた看護を科学的根拠に基づいて理解することができる。	
	MH23カリ・保健・看護			
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		健康障害を呈する主な疾患について、臨床医学の専門診療領域における診断、治療、予防等を学修し、病者を全人的に理解して健康を支援する方策を看護実践に活用することができる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		健康障害を呈する多様な病態に対して、臨床医学の専門診療領域における科学的根拠に基づいた診断および予防と治療を理解し、症状や障害等の健康課題を解決する看護実践の探求に取り組む力が身についている。	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	人体の構造と機能Ⅰ（解剖学）、Ⅱ（生理学）、Ⅲ（症候学）および成人看護健康論Ⅰ（内科学）の学修に基づいて、臨床医学の専門領域の疾患について病態の概要を学びます。特に、歯科口腔外科、脳神経外科、婦人科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科が対象とする健康障害について、病態や診断と治療・予防等について学びます。看護実践において共通理解の基盤となる専門医学領域の基礎的な知識を修得します。 授業は看護学教育モデル・コア・カリキュラムの「疾病と回復過程の理解」「健康障害や治療に伴う人間の身体的・精神的反応の理解」に即して展開されます。 授業は信州大学医学部の各専門診療科に従事する教員が実務経験を活かして講義を行い、信州における最先端の医療を盛り込んだ講義を予定しています。			
授業計画	第1回（10月 1日）歯科口腔外科の疾患と健康障害について 第2回（10月 8日）歯科口腔外科の疾患と健康障害について 第3回（10月15日）脳神経外科の疾患と健康障害について 第4回（10月22日）脳神経外科の疾患と健康障害について 第5回（10月29日）婦人科の疾患と健康障害について 第6回（11月 5日）婦人科外科の疾患と健康障害について 第7回（11月12日）泌尿器科の疾患と健康障害について 第8回（11月19日）泌尿器科の疾患と健康障害について 第9回（12月 3日）皮膚科科の疾患と健康障害について 第10回（12月10日）整形外科の疾患と健康障害について 第11回（12月17日）整形外科の疾患と健康障害について 第12回（12月24日）耳鼻咽喉科頭頸部外科の疾患と健康障害について <レポート> 第13回（ 1月 7日）眼科の疾患と健康障害について 第14回（ 1月14日）整形外科の疾患と健康障害について 第15回（ 1月21日）整形外科の疾患と健康障害について；授業アンケート 第16回（ 1月28日）<期末試験>			
授業の進め方	専門診療科の教員がオムニバス形式で分担します。各領域の代表的な疾患について、豊富な画像情報を含む講義資料に基づいて講義が行われます。 稀ですが担当教官の都合により日時や授業形式を変更することがあり、その場合は変更内容をeALPSに掲載してメールで連絡します。			
テキスト，教材，参考書	<参考書> （内科領域）なるほどなっとく！内科学 改訂第3版：浅野嘉延 編（南山堂）（6000円） （その他・各診療科）各担当教員指定の教科書・参考書・講義資料等 （参考図書） ナーシング・グラフィカ 成人看護学 健康危機状況／セルフケアの再獲得 改訂第2版 メディカ出版 NiCE成人看護学 成人看護技術 改訂第3版 南江堂 わかりやすい内科学 第5版：井村裕夫他 編 文光堂（11000円）			
成績評価の方法	レポート 20点と、1月28日の期末試験（全ての授業範囲から出題される筆記試験）80点（合計 100点）。			

成績評価の方法	【レポート作成要領】 <レポート> 第1から第12回（歯科口腔外科、婦人科、脳神経外科、泌尿器科、皮膚科、耳鼻咽喉科頭頸部外科、整形外科）から1つの授業を選択し、テーマを1つ設定する。 <テーマの設定と執筆の注意> ほかの授業（科目）で提出したレポートと重複しないこと。1つの授業で扱った病態（できれば複数の疾患を含む）について、以下の評価基準に従い、事後学習により学びを深めるレポートとすること。評価基準の概要を下の欄に記載しますが、レポートの書き方、提出期限、字数、参考文献の書き方、評価基準の詳細等について、eALPSに提示する資料を確認し、提出期間中にeALPSで提出してください。
成績評価の基準	【レポートの評価基準】 以下の5項目について各4点の合計20点が満点です。 (i) テーマの設定および参考文献が適切であるか、(ii) 学習内容や論点が明確であるか、(iii) 健康障害（疾患または病態）に関する医学的知見（疫学、診断、治療、予防など）、(iv) 健康障害に対する看護実践の要点や課題、(v) 総括、結論およびテーマに関する自分の見解および感想。 【最終評価】レポート 20点と期末試験 80点で合計 100点とし、60点以上を合格とします。90-100点：秀（レポートおよび期末試験の評価が卓越している）、80-89点：優（レポートおよび期末試験の評価がかなり上にある）、70-79点：良（レポートおよび期末試験の評価がやや上にある）、60-69点：可（レポートおよび期末試験の評価が授業が目標とする学修水準にある）。
事前事後学習の内容	1. 事前学習について オムニバス形式なので、各担当教官から事前に指示がある場合は連絡します。 2. 事後学習について 担当教員により授業内容が変わりますが、毎回復習をして次の授業に臨んでください。毎回の授業のeALPSにフィードバックを設定しますので、意見・感想・質問を入力してください（入力必須ではありません）。 本授業の単位修得には45時間の学習時間が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）+ 自己学習時間15時間（1時間×15回）= 45時間。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	毎回の授業時にeALPSでフィードバックを設定し、担当教員への質問や感想、意見・要望が記載できます。担当教員が重要と考える質問について、回答をいただいた場合は、後日eALPSに掲載してフィードバックします。 個別の授業内容の質問や相談は、可能な範囲で各授業の後で担当教官に何うと良いでしょう。 授業全般に関する内容やレポートに関する質問や相談は、以下のように対応します。 質問への対応：伊澤 淳 izawa611@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：金曜 16 - 17時 伊澤研究室（保健学科中校舎4階）での対面による質問や相談を希望する方は、日程調整のため事前にメール（izawa611@shinshu-u.ac.jp）で可能な日時を複数提示してください。